

令和7年度 学校評価(中間期) 令和7年7月実施
【評価基準】 A:目標達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満

愛南町立船越小学校

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
一 確 かな 学 力 の 定 着 ・ 向 上	①確かな学力の定着 向上に努める。	基礎・基本の確実な定着を図り、児童に確かな学力を身に付けさせようと努力している。 ※学級担任全員が肯定、児童・保護者の90%以上が肯定 ※各教科の単元テストでの平均正答率80%以上(A判定)が80%以上	A	◇教職員、保護者は100%の肯定率であるが、児童は94.4%である。単元テストの正答率は全学年で平均正答率が80%以上となっている。どの学級においても、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、教職員一人一人が指導方法の改善に努めたり、宿題の内容等を工夫したりしている。また児童も、学習のめあてを念頭に置きながら、一生懸命学習に取り組んでいる。児童全員が「授業が分かる」と言えるように、一人一人の学習状況を丁寧に見取り、個に応じたきめ細かな指導に努めていかなければならない。 ◆引き続き、丁寧な見取りと個に応じた指導、ICT等を活用した個別最適な学びの充実に努める。さらに、定期的に既習内容を復習する機会を設け、学習内容の確実な定着を図る。 ◆2学期以降も、校内検定(算数、漢字)を実施し、目標に向かって粘り強く学習に取り組もうとする態度や意欲を育てる。	教職員アンケート3-①②	58.3%	41.7%	0.0%	0.0%
					児童アンケート⑤⑥⑦	55.6%	38.9%	5.6%	0.0%
					保護者アンケート⑯	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					肯定率平均→	98.1%			
	②基本的な学習習慣 を確立する。	児童の学習意欲を高め、文章を読み取る力や自分の考えを豊かに表現する力が身に付いている。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇教職員全員が肯定している。朝学習の時間では、それぞれの学級で個に応じた学習の充実を図っている。また、金曜日の朝活動は、全校で新聞を読む時間とし、多様な文章表現に触れさせながら語彙力や表現力の向上に努めた。チャレンジタイム(全校話合いやファミリー班活動、句会等)を通して、自分の考えを表現したり、友達の話を聞いて感想を交流したりすることができた。 ◆授業では、児童の学ぶ意欲を高めるような工夫や、思考を促すような発問の工夫に努める。 ◆語彙力の向上に向け、様々な表現に触れる機会を増やす。他校とのオンライン交流活動等を取り入れながら、同学年の友達と対話する機会を増やし、相手意識を持たせながら、自分の言葉で表現する力を伸ばす。	教職員アンケート3-⑦	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					肯定率平均→	100.0%			
		ICT機器を有効に活用し、児童の学習意欲を高めたり、成績処理を効率よく行ったりしている。 ※教職員・児童の80%以上が肯定	A	◇教職員、児童ともに肯定率は100%である。デジタル教科書、エイリスのテストや検定、ミライシード等を活用した学習を進めてきた成果である。しかし、教職員の4評価は50%であり、効果的な活用には課題が残る。 ◆学習のめあての達成に向けてデジタルとアナログをベストミックスした事例に関する研修を行い、教師のICT機器等の効果的な活用力を向上させる。	教職員アンケート3-③	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					児童アンケート⑧	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	①基本的な学習習慣では、保護者対象アンケート結果が前年度と変わらず低いと考える。効果的な指導を期待する。 ②児童一人一人に応じた指導ができていない。 ③児童、教職員共に、真摯に取り組んでいる様子がうかがえる。これからも、意欲と達成感を持って向上していけるよう、教職員の指導に期待している。 ④教職員が6人の子供たちを見つめ、一人一人に合った指導をしている。よく分かる授業を行い、学力の定着を図ることができるようにしてほしい。 ⑤確かな学力の定着(学習意欲)向上に、復習だけでなく予習も取り入れてはどうか。 ⑥基本的な学習習慣の確立については、保護者をはじめ、家庭での過ごし方を見直すことも必要ではないか。	学校の 対応	①児童の家庭学習の様子や頑張りを、学級通信等で保護者に伝える。 ②今後も児童一人一人に応じた指導を行う。 ③児童が意欲を持って授業に取り組めるように、発問の工夫をしたりICTを効果的に活用したりする。また、児童が達成感を得るために、「できる」「分かる」授業を行うよう努める。 ④児童一人一人の特性に応じた指導を心掛ける。 ⑤学年に応じて、復習だけでなく予習も家庭学習に取り入れる。 ⑥予習を取り入れた家庭学習も含め、家庭での時間の使い方や規則正しい生活の送り方などについて、学級通信等で保護者に働きかける。	教職員アンケート3-⑤	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
					児童アンケート⑰	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート③④	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%
					肯定率平均→	83.3%			

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
二 豊かな心や挑戦を楽しむ態度の育成	③生徒指導の徹底と健全育成に努める。	教育相談体制を確立し、児童理解に基づいた、温かい人間関係づくりに努めている。 ※教職員・児童・保護者・地域住民の90%以上が肯定	A	◇教職員、児童、保護者、地域ともに、100%の肯定率である。特に、地域においては、4評価が92.3%と非常に高い肯定率となっており、学校の日々の取組について、肯定的に評価していただいている。 ◇定期的に実施している教育相談に加え、様々な機会を捉えて児童の思いを把握するように努めている。これらの活動が、適切な児童理解につながっていると考えられる。 ◆引き続き積極的な児童理解と教職員間での情報共有に努める。 ◆学校行事や授業の中での児童の様子を学校だよりやホームページ等で伝え、学校・家庭・地域が一体となって児童を見守ることができるようにする。	教職員アンケート8-③	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
					児童アンケート ①⑩⑫⑬	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート⑧⑨⑪⑬⑮	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%
					地域アンケート⑥	92.3%	7.7%	0.0%	0.0%
					肯定率平均→	100.0%			
					子どもを見つめる会	研修会の時に毎回実施			
	④地域を活用した体験活動を充実する。	地域を学んだり、地域人材の指導を受けたりするなど、地域を活用した体験活動を計画的に実施する。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇保護者は100%の肯定率だが、教職員94.4%、地域94.9%となっている。個々のアンケート結果を見ると、地域の方は、もっと地域人材の活用や地域とのつながりを望まれている。 ◇総合的な学習の時間の防災学習や生活科の地域探検を通して、船越の人やものの良さに触れる中で、自分たちの安全のための工夫や地域との関わり方について考えることができた。愛媛県の出前授業「ふるさと愛媛学」を活用し、地域の歴史や防災について学び、地域への関心を高めることができた。 ◆ふるさと愛媛学の出前授業をすることにより、子供たちは地域への関心が高まっている。地域コーディネーターを活用し、地域とのつながりづくりに努めながら、地域の達人、名人から学ぶ機会を設定する。	教職員アンケート 3-⑪6-④⑪-⑤	33.3%	61.1%	5.6%	0.0%
					保護者アンケート⑰⑱	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					地域アンケート④⑤⑧	71.8%	23.1%	5.1%	0.0%
					肯定率平均→	96.4%			
	⑤『つながり合う』『挑戦を楽しむ』『元気な心と体』をキーワードにした、学校風土を醸成する。	全校児童が共通の目標に向かい、粘り強く頑張る活動を実施する。 ※校内漢字・算数検定合格を目指し、基礎的・基本的学習内容の定着を図るための自主学習等を奨励する。 ※児童・教職員・保護者の80%以上が肯定	A	◇教職員、児童、保護者ともに肯定回答が100%であり、評価指標による評価はA評価である。1学期の校内漢字・算数検定では、どちらも全員が合格し、目標を達成できた。児童の4評価は83.3%と高く、多くの児童が自分の頑張りを実感していることが分かる。 ◆引き続き、校内漢字・算数検定を実施し、子供たちの挑戦しようとする態度を育てる。より心を合わせて取り組ませるために、検定週間や月間を設定し、ポスター掲示をしたり学級通信等で家庭に知らせたりする。	教職員アンケート3-②⑤⑧	44.4%	55.6%	0.0%	0.0%
					児童アンケート⑥	83.3%	16.7%	0.0%	0.0%
					保護者アンケート⑰	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					肯定率平均→	100.0%			
		児童・教職員が互いのことを尊重し、認め合う関係づくりをする。また、感謝の言葉を発し合ったり、「ありがとうの木」活動の充実を図ったりして、自己肯定感を高める。 ※児童・教職員の100%が肯定	B	◇児童アンケートは100%の肯定率であるが、教職員アンケートでは91.7%の肯定率であった。児童においては、少人数の特色を生かした縦割り班活動を通じて、優しさと思いやりのある行動をとる姿が見られた。また、「ありがとうの木」活動を通し、肯定的なメッセージをもらうことで児童一人一人の自己有用感が高まり、自分に自信を持つことができた。 ◆自分の気持ちややりたいこと、自分の楽しさばかりを優先せず、「相手がどう思うか」を考えて行動し、みんなが気持ちよく安心して生活できる学校になるよう、機会をとらえて声掛けをしていく。 ◆これからも、「ありがとうの木」活動を継続する。 ◆教職員が感謝の言葉や肯定的な言葉掛けをすることで、児童の良いモデルとなるようにする。	教職員アンケート1-③⑤	25.0%	66.7%	8.3%	0.0%
					児童アンケート④	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
肯定率平均→					95.8%				
学校運営協議会所見	①アンケートによる肯定率は高いものの、更に個性あふれる学習による児童の育成を期待する。 ②様々な活動を実施することで、豊かな心や挑戦を楽しむ態度の育成になっているのではないか。 ③本を読んだり映像等を見たり、いろいろな人と触れ合ったりする中で、自分で考え、思いを巡らせながら、心豊かに、そしていろいろな物事に興味や関心を持ち、何事にも取り組んでみようとするチャレンジ精神を育ててほしい。 ④地域素材の活用等、多くの体験を取り入れた活動を工夫していることが分かる。子供たちの心の成長も感じる。更に挑戦し、認め合う場づくりの継続を期待する。 ⑤地域では、挨拶ができない児童がいる。 ⑥教職員が子供に手をかけ過ぎると、子供の自主性が育ちにくなるのではないか。 ⑦生徒指導の徹底と健全育成のため、地域等で見聞きた児童の様子は良いことだけでなく良くないと思われることも学校へ伝えるようにする。 ⑧地域を活用した体験活動の充実については、地域の活動(サロン、盆踊りの口説きの練習等)に出向いて参加するのも良いのではないか。 ⑨3つのキーワードによる学校風土の醸成については優しさと思いやりに加えて、心の強さも身に付けるべきではないか。	学校の対応	①児童の個性を大切にしながら、学校の教育目標の実現に努める。 ②児童に様々な学習体験や生活体験をさせることで、心の豊かさや挑戦する気持ちが育つと考えられる。今後も、体験活動の充実に努める。 ③児童は家庭で動画を見る機会が多いが、読書の機会は減っている。朝読書や読書集会などの充実により、児童の読書習慣を確立する。 ④地域人材や地域素材の発掘に努め、地域学習や体験学習を通して、児童の成長につなげる。 ⑤道徳の時間や普段の生活の中で挨拶の重要性を指導するとともに、教職員が模範となって明るい挨拶を児童と交わすようにする。また、家庭や地域にも呼び掛け、学校全体、地域全体で挨拶運動に取り組む。 ⑥児童自身で考えて行動すること、教職員が支援することのメリハリをつけ、児童の自主性を伸ばすように努める。 ⑦地域からの声を真摯に受け止める。良いところはしっかりと褒め、良くないことは丁寧に指導する。 ⑧地域コーディネーターと連携して、サロン等の地域の活動に参加を試みる。 ⑨3つのキーワードを核としながら、例えば挑戦する機会を増やしたり励ましたりして、心の強さを身につけさせる。						

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
三 健やかな心身の育成	⑥体力・運動能力を高める教育活動を充実する。	体力テストの結果を活用し、体育の授業において、不足している体力・運動能力を向上させるための運動を取り入れる。 ※体育の授業全体の70%以上 ※朝運動を週2回実施する。	A	◇新体力テストの結果として、A級合格者3名、パーフェクト自己新記録賞が2名であった。全体の傾向として、柔軟性や走力に課題が残る。 ◇体育の授業では、柔軟運動や体幹トレーニングを取り入れ、基礎体力の向上に努めた。 ◆「やればできる」という前向きな気持ちで取り組めるよう、頑張りを適切に評価していく。2学期以降も体育の授業や放課後の陸上練習等を通して、柔軟運動や走の動きづくり、体幹トレーニングを行うなどして、体力や運動能力の向上に努める。	不足している体力・運動能力を向上させるための運動の実施率	低	70%		
	⑦基本的な生活習慣の確立、保健指導・安全指導を充実する。	家庭と連携・協力して基本的な生活習慣の確立・定着を図ったり、全職員で個に応じた保健指導・安全指導を徹底したりするなどして、全校児童が登校する日を増やす。 ※年間の全校児童出席日数が150日(約75%)以上 ※教職員・児童・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇教職員、保護者、地域の肯定率は100%であるが、児童は91.7%である。フリー参観日で、保健集会を実施し児童と保護者・地域が共に学ぶ機会を設けることで、家族で生活習慣の振り返りを行い、体や健康についての関心を高めることができた。しかし、1名の児童は、基本的な生活習慣が身に付いていないと感じている。児童の実態に応じて個別の働き掛けも行いながら、家庭と連携していく必要がある。 ◆基本的な生活習慣の確立を図るために、保健委員会が主体的に啓発活動などの取組を行い、全校児童に働き掛けることで、児童同士の学び合いの中から改善意識を持たせる。 ◆基本的な生活習慣の定着に向けた学校の取組について、保健だよりや学校だより、ホームページ等を通して家庭に情報を発信する。 ◆学校保健委員会において、基本的な生活習慣についての本校の実態と課題を提示し、学校・家庭・地域がそれぞれの立場で手立てを考え、連携・協力して課題に取り組める体制づくりを行う。	教職員アンケート1ー②7ー①②③④	26.7%	73.3%	0.0%	0.0%
					児童アンケート③⑩	50.0%	41.7%	8.3%	0.0%
					保護者アンケート⑥⑦⑫	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
					地域アンケート①②⑦	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%
肯定率平均→	97.9%								
全校児童出席日数	57日/71日(80.3%)								
学校運営協議会所見	①基本的な生活習慣の保護者アンケートの値が向上するよう、保護者との連携を強化してほしい。 ②健やかな心身の育成に、家庭と連携して行うのはよい。 ③同学年がほばいないため、良い意味での比較や競争心に欠けると思うが、個々に応じて目標など定め、前向きな気持ちで頑張ってもらいたい。基本的な生活習慣は、無理なく、小学生のうちに身に付けてほしい。 ④運動面では、多くのことにチャレンジする心が育っているように思う。基本的な生活習慣の確立にも配慮している学校の姿勢がうかがえる。継続した指導を期待する。 ⑤基本的な生活習慣の確立については、保護者をはじめ、家庭での過ごし方を見直すことも必要ではないか。	学校の対応	①引き続き保護者に協力を依頼し、児童の基本的な生活習慣の確立に努める。 ②今後も家庭との連携を密に行う。 ③新体力テストや町の水泳・陸上競技大会、マラソン大会などの機会を通して、個に応じた目標を設定する。互いに競い合い高め合いながら取り組ませ、児童の体力を向上させる。 ④今後ともチャレンジする気持ちを育てる。基本的な生活習慣の確立は、家庭と協力しながら進める。 ⑤学習習慣同様、生活習慣の育成のためにも、家庭と密に連携する。						
四 特色ある学校づくり	⑧開かれた学校づくり、地域に信頼される学校づくりを目指す。	地域の人や保護者に対して、学校の取組の周知に努め、願いや思いを把握し、誠意を持って対応するよう努める。 ※教職員・保護者・地域住民の80%以上が肯定	A	◇教職員、保護者の肯定率は100%であるが、地域の肯定率は96.2%であった。全体的にはA評価であるものの、3.8%の意見は真摯に受け止め、改善を図る必要がある。2の評価を見てみると、「地域の教育力の活用」と「地域に開かれた学校」の項目で低い評価がついている。自由記述欄には、学校が高台にあるため学校まで上がっていくことが大変という意見があった。物理的な問題の改善は難しいが、提案していただいた意見を前向きに検討するなど、地域との交流が促進されるような方策を考えていく必要がある。 ◆学校運営協議会等にも働き掛け、学校の地域貢献のニーズについて情報を収集し検討する。 ◆今後も、学校だよりやホームページを使って、情報発信に努めていく。また、地域・学校協働活動への参加希望をいただいている方には案内を出すなどして、気持ちよく協力いただけるように配慮する。 ◆ふれあい集会や学習発表会などを、船越集会所など地域の施設を利用して実施できないか検討する。	教職員アンケート11ー①③	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	保護者アンケート ⑩⑭⑰⑱	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%				
	地域アンケート③④⑤⑧	75.0%	21.2%	3.8%	0.0%				
	肯定率平均→	98.7%							
学校運営協議会所見	①今後も、積極的に保護者と地域住民の意見を反映した学校運営に期待する。 ②普段は、子供のいない地域もあり、学校だよりなどで入ってくる情報だけでは、学校での出来事が分かりにくい。 ③改善策にもあったように、ふれあい集会や学習発表会等、船越集会所での実施に賛成である。(準備等、いろいろ大変な面もあるが…)敬老会等、児童が特別ゲストとして、こま回しなど一芸披露するなどどうか。 ④学校だより、ホームページ、ケーブルテレビ等々、多くの情報を発信している。集会所等の地域施設の活用は大変よい取組だと思う。 ⑤開かれた学校づくりは安全な学校づくりと背中合わせなので、難しいことも多いと思う。個別のアンケートにある「高台にあるため学校まで上がっていくことが大変」と言う意見は、大変でなければ行きたいということだと思う。許可していただければ、可能な範囲で送迎するので連絡してほしい。	学校の対応	①保護者や地域住民の思いや願いの把握に努める。 ②学校だよりやホームページ、CATV等で学校の様子を伝える。また、必要に応じて地域の防災無線を活用して、学校の情報を発信するよう努める。 ③ふれあい集会を船越集会所で実施する。また、地域住民との交流の場、学習したことの発表の場として、地域のサロン等を利用させていただくよう検討する。 ④各種メディアを効果的に活用する。 ⑤地域コーディネーターや地域の方、保護者の方の協力を得ながら、例えば自動車に乗り合わせて学校行事に参加していただくなどの対策も検討する。						

項目	重点目標	評価指標及び目標値(※)	評価	考察(◇)及び改善方策(◆)	評価資料	アンケート結果(%)			
						4	3	2	1
五 指導力の向上 教職員の資質・	⑨指導力の向上を目指す、組織的・計画的な研修を実施する。	お互いの指導力向上に役立つ、組織的・計画的な校内研修を実施する。 ※教職員の80%以上が肯定	A	◇教職員の肯定率は100%であった。校内研修は、計画に沿って行っている。教材研究などの自己研修を行う時間を適切に確保することが課題である。相互研修ネットワーク(町内の各校の研修会にオンラインで参加するシステム)も活用し、校外研修にも積極的に参加し、指導力の向上を図っている。 ◆計画を見直しながら、本校の課題や時代の要請に沿った内容の研修に努める。また、相互研修ネットワークを活用したり、各種オンライン・オンデマンド研修に積極的に参加したりして、指導力を高める。	教職員アンケート10-①②③④	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	①教員の指導力スキルアップのため、時代錯誤な事例があれば、教職員の意見を反映の上で変革し、児童の学力及び表現力の向上に努めていただきたい。 ②今の内容で良い。 ③小規模校のため、いろいろ苦労もあると思うが、教職員が明るく元気に、意欲的に児童の模範となるべく教育活動に取り組むよう期待する。	学校の対応	①時代の流れを敏感に感じ取り、最新の教育情報を得ながら教職員のスキルアップを図る。 ②校内研修や自己研修を更に充実させる。 ③小規模校の良さを生かして個に応じた指導を充実させるとともに、教職員自身が児童の社会性を育む良きモデルとなれるよう努力する。	肯定率→	100.0%			
六 命を守る安全教育	⑩健康・安全教育の推進に努めるとともに、学校の安全体制を確立し子どもの命を守る。	あらゆる場を通じて、事故や災害から自分の命を守る知識や方法を指導して、「命を守る」能力を高める。 ※地震・火事・津波の時の避難の仕方が具体的に分かっている児童・教職員・保護者・地域住民の100%が肯定	A	◇教職員、児童、保護者、地域ともに、100%の肯定率である。しかし教職員のアンケートでは、3の評価が若干上回っている。今年度、教職員の中で話題になったのは、不審者対応についてである。不審者対応に対する不安があるのではないかと考えられる。地域住民のアンケートでは、4評価が74.4%で3評価25.6%となっている。1学期にプールのろ過機の故障もあったが、地域の方にとっては、施設の老朽化や塩害など気になることも多いのではないかと考えられる。 ◆地震・津波、火災、不審者、突然死など様々な状況を想定した避難訓練やシミュレーション等を実施する。特に不審者についてはだれもが臨機応変に落ち着いて対応できるように、スクールガードリーダーや警察とも連携した訓練に取り組む。また施設の老朽化については、教育委員会と相談しながらできる範囲で対応していく。 ◆地域と連携した訓練の実施、危機管理マニュアルの見直しと周知により、教職員一人一人の対応力強化を図る。	教職員アンケート7-⑥⑦⑧⑨ 児童アンケート⑩⑪ 保護者アンケート⑫⑬ 地域アンケート⑭⑮⑯⑰	45.8%	54.2%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	火気・施設等の確認を徹底し、定期的な安全点検を全教職員で行い、安全確保に努めている。 ※教職員の100%が肯定	A	◇教職員の肯定率は100%である。火気・施設等の確認、安全点検もできた。 ◆今後も、毎日の火気・施設確認を徹底し、月1回の安全点検を欠かすことなく実施することで、より一層の安全確保に努め、安心して学べる学校を目指す。	教職員アンケート7-⑤	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
					肯定率→	100.0%			
					安全点検	・月1回実施 ・警報発令時に適宜実施			
	学校運営協議会所見	①私たちの想定を超える自然災害は毎年のように各地で発生し、甚大な被害をもたらしている。とりわけ発生確率がますます高まっている南海トラフ地震では、愛南町において最大17mの大津波が発生すると予想され、児童への防災学習は必須と考える。 ②今の対応、計画で良いと思う。 ③災害や避難訓練等、地域と共に学べる機会があれば良い。 ④スケボーの遊び方等、気になったことがあった。	学校の対応	①南海トラフ巨大地震を想定した避難訓練を実施するとともに、防災リュックの準備や家具転倒防止の対策などの自助、地域での避難訓練などの共助、避難所の設営や救助活動などの公助への意識を高める。 ②安全安心な学校となるように安全教育に更に取り組む。 ③今年度は船越地域において、夜間の避難訓練が予定されている。地域住民としてこのような訓練に取り組むことを奨励するとともに、事前に危険個所の把握や夜間の避難の仕方を学習する。 ④自然災害だけでなく、生活安全や交通安全の指導並びに施設等の安全管理も徹底する。					
七 特別支援教育の充実		必要な児童の個別の指導計画を作成・活用し、共通理解の下、個々の能力を伸ばす指導・支援を行う。 ※教職員の100%が肯定	A	◇教職員の肯定率は100%であるが、個別の指導計画の十分な活用には至っていない。校内委員会においては、児童の進学に向けて、学級や学校での支援について、全教職員で共通理解を図ることができた。 ◆個別の指導計画を教職員間で共有し、組織的な支援を行う。また、特別支援学級の児童については、本人や保護者の意向を踏まえ、中学校とも連携を図りながら、中学校進学を見据えた指導・支援を行っていく。 ◆校内研修会の中で、各学期ごとに特別支援教育校内委員会を開く。また、特別支援教育の視点に立った指導法の工夫について研修を深め、教職員一人一人の資質能力の向上を図る。	教職員アンケート12-①②	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%
	学校運営協議会所見	①引き続き、特別支援における適切な教育環境の確保、支援を必要とする子供に対するより適切な教育を行うことを期待する。 ②良いと思う。 ③特別支援教育や児童の状態についてはよく分からないが、教職員は個々を尊重し、無理なく指導されているように思う。不安なく進学し、楽しく学校生活が送れることを願っている。	学校の対応	①特別支援教育の充実に向けて、支援を必要とする児童の個別の教育支援計画や個別の指導計画を継続的に見直し、教育環境の整備を進める。また、教職員の研修を充実させ、より適切な指導や支援の方法を学ぶ機会を設ける。 ②更なる特別支援教育の充実を図る。 ③児童が安心して学校生活を送ったり進学したりできるように、教職員が連携して一人一人の児童に応じた指導ができるように努力していく。	肯定率→	100.0%			